

佐世保中心商店街・商業施設 (SASEBOまち元気協議会)

長崎県佐世保市

大型商業施設と商店街が連携し 外国人観光客向けの環境を整備



取組の背景

増えたクルーズ船 乗客は市外の免税店へ

佐世保市では、東アジアに隣接する地理的な優位性を活かした国際旅客船の受け入れを2014年から開始し、「国際観光の活性化と観光都市機能の強化」に向けた取組を促進している。

2018年7月には、佐世保港三浦岸壁に大型クルーズ船の接岸可能な岸壁を整備したことにより、本市への寄港が増加している(2016年度77隻、2017年度89隻、2018年度100隻見込み)。しかし、乗客の大部分はオプションツアーに参加し、市外の免税店で買い物をしている状況であった。さらには、乗組員も商店街に足を運ぶことはほとんど無く、ターミナル近隣の商業施設で食品等の買い物をする程度であることもわかっていった。

人口減少及び郊外への大型店立地、ネット通販の普及等により域内消費が減少する中、まちなかへの消費の取込みを図ることが課題としてあがった。



停泊するクルーズ船

取組の内容

エリア全体で進めた スマホ決済やWi-Fi整備

前述のような状況を受け、市は商店街へ外国人観光客を誘致するため、商店街に隣接する公園をクルーズ船観光バス専用の乗降場として整備した。一方、まちなかの消費の現状と市の動きを踏まえ、協議会は、まちなかにはWi-Fiや決済環境が整備されていない等、店舗側の受け入れ環境が整っておらず、外国人客が安心して買い物できる状態でないことが問題であると判断。また、個店での取組ではなく、まちなかが一体と

なって環境を整備し、歓迎の雰囲気づくりを行うことが重要であると考えた。

そしてこの考えに基づき、大型商業施設を含むまちなか全体としての受け入れ環境整備のため、スマホ決済導入説明会やインバウンドセミナーによる勉強会を開催し、取組方やその効果を学ぶ等して環境整備のための取組を積極的に実施した。これにより商業施設および商店街におけるスマホ決済の導入やWi-Fi環境の整備が促進された。さらには、クルーズ船入港当日には、商店街全体で統一された多言語ポップの掲示や店頭でのワゴン販売、無料シャトルバスの運行等、歓迎の雰囲気の醸成に取組んだ。

このようにして、個店単位ではなくエリア全体の“面”として外国人客が安心して買い物できるような環境整備は進められた。また、単に環境整備だけでなく、歓迎の雰囲気のための様々な手法を実施してきた。その結果、商店街への外国人観光客が増加し、商品を購入される店舗の数も徐々に増加。商業施設、商店街の双方にとって新たな消費が創出される状況となっている。また、その他にも、まちなかウォーキングスタンプラリー実施による回遊性・滞在時間の向上や、各団体に統一されたデザインの机と椅子を設置し、一体感を演出する「マチつなぐプラン事業」による回遊性及び滞在時間の延長等も効果が表れている。



無料シャトルバスを利用する外国人観光客



インバウンドセミナーを熱心に聞く参加者たち

取組の成果

市内の消費が純増個店の 意識醸成で活性化へ

取組の効果は、クルーズ船が寄港する国際ターミナルとまちなかの商店街をつなぐ「シャトルバス運行事業」と合わせて実施された「ワゴン販売事業」「クルー向

「割引販売」での売上状況を調査された。まちなかの商店街と一部の商業施設で3日間に渡り調査行われた調査では、外国人観光客による売上は合計約13百万円という結果になり、これまでは市外へ流出していた消費がまちなかにおいて純増したことが形となった。

また、「何を購入したか」「商店街で販売してほしい商品はあるか」等の項目についてクルーズ船の乗客や乗組員に対する聞き取り調査も実施し、調査結果からツアーを利用する客、フリーで観光する客、乗組員のそれぞれの売れ筋商品等を分析し、個店にその内容を伝えている。

こうした取組により、個店のインバウンド需要取込みに対する意識の醸成とワゴン販売事業への参加店舗の促進等、今後のインバウンド需要取込み拡大とまちなか全体の活性化へつなげられている。



外国人観光客へのアンケートの様子



ワゴン販売の様子



協議会における話し合いの様子

実施体制

SASEBOまち元気協議会は2013年6月、4つの商店街組合と2つの大型商業施設、商工会議所、市の8団体で構成されており、多様な視点で活性化策に向けた検討・取組が可能となっている。

事業実施にあたっては、情報の共有による連携した発信や事業展開、多団体構成に伴う事業実施体制（人材）の充実、また民間主導組織であるため斬新性や機動性を持ち合わせている。事業実施に必要な財源についても、健全な運営がなされており、商店街活性化のみならず、本市まちなかの活性化をけん引する団体として評価されている団体である。

キーパーソンからのコメント

「ヒト・マチ・コミュニケーション」で、まち元気計画を

佐世保のまちは海軍と共に歩んできたまちです。

させぼのまちなかは、ネイビー・赤レンガ・水辺・路地裏・文化をキーワードに、個店・商店街・大型店を点から面でつなぎ連携し、「ヒト・マチ・コミュニケーション」をコンセプトに様々なイベントを積み重ねています。

まちが人を育て、人がまちを育てる「まち育（まちいく）」イベントは「ひとづくり」。これを「まち育」としてまちづくりを楽しむことにより一番大切な「ひとづくり」を進めていこうというのが私たちの考えです。



SASEBOまち元気協議会
会長
竹本 慶三

商店街の概要

大型商業施設「させぼ五番街」の立地を契機に、まちなか環境の機能向上（利便性・回遊性）、新たな魅力創出、若手人材の育成等を目的とし、2013年6月に「SASEBOまち元気協議会」が設立された。SASEBOまち元気協議会は、商業施設であるさせぼ五番街、えきマチ1丁目と既存商店街の三ヶ町商店街、四ヶ町商店街、京町商店街、戸尾商店街に加え、佐世保商工会議所と佐世保市の8団体で構成されている。

加盟8団体はいずれも佐世保市の中心市街地に位置しており、戦後商店街が形成されて以降、市内はもとより長崎県北地域の拠点として位置づけられ、本市経済を支えてきた地域である。

- 所在地 長崎県佐世保市本島町
- 人口 約25万人（長崎県佐世保市）
- 電話／ 0956-24-4411
- FAX／ 0956-24-4412

- URL <http://www.sasebo-machinaka.com>
- 会員数 307名
- 店舗数 393店舗（小売業201店、飲食業46店、サービス業48店、金融業6店、その他6店）

- 商店街の類型 エリア価値向上型
- 主な客層 主婦、家族連れ（親子）／50歳代、60歳代